

# 「社会調査工房オンライン」2004 年度更新報告 実践的な社会調査教育をめざして

西川麦子<sup>1</sup>

甲南大学社会学科教授

社会調査工房オンライン(以下、本コンテンツ)は、2003 年度「甲南大学サイバーキャンパスネットワーク事業」の一環として企画・制作され、2004 年度に公開された。社会調査教育における自学自習用のコンテンツの開発を目的としている<sup>2</sup>。本稿では、2004 年度同事業からの助成を受けて行った「社会調査工房オンライン」の更新内容を報告するものである。1 では社会調査工房オンラインの目的と特色を説明し、2 で今回の更新について全体的な意図を述べ、更新箇所を示している。3 では、各箇所の更新内容を具体的に紹介し、4 では今後の課題にふれている。

## 1. 社会調査工房オンラインの目的と特色

社会調査工房オンラインは、甲南大学文学部社会学科教員 10 名全員が作成を分担しており、自学自習用コンテンツ、実習教育補助コンテンツ、情報共有コンテンツ、からなる。は、社会調査法の方法論と事例をマニュアル化したものであり、本コンテンツの基本部分である。は、社会調査関連科目に関する掲示板であり、課題やレポートの講評、学生へ向けた連絡事項などを適宜掲示することができる。は、教員間や教員とティーチング・アシスタントの情報共有を行うものである。Web ページは、大きくは 3 つから構成されている。1 つは、社会調査の方法についてのページであり、全体的な利用説明(「社会調査工房オンラインへようこそ」と社会調査の概論(「社会調査の方法」)からなる。これらが上記の 自学自習用コンテンツにあたる。2 つめは、社会調査関連講義科目のページであり、主要 8 科目について連絡板があり、それぞれの受講生を対象とした掲示板と、教員・TA 間の掲示板がある。上記コンテンツ、にあたる。3 つめは、その他のページであり、「社会調査工房について」「リンク集」「クレジット」が含まれる。

2004 年度の更新作業においては、おもに 自学自習用コンテンツを対象としている。そのメ

---

<sup>1</sup> 社会調査工房オンラインは、甲南大学文学部社会学科の全スタッフ 10 名(鶴飼孝造、大津真作、北原恵、菅康弘、中里英樹、西川麦子、野々山久也、平松 闊、宮垣元、森田三郎、以上あいうえお順)が共同に開発・制作した。本稿は、上記スタッフからの意見にもとづいて作成したが、文責は西川にある。

<sup>2</sup> 甲南大学文学部社会学科では、実際の・実践的教育に重点をおき社会調査関連科目を充実させてきた。その特徴をより発展させるために 2003 年度には「社会調査工房」を開設し、社会調査関連の機材を充実させ教育環境のハード面の整備をはかってきた。一方、社会調査工房オンラインは、実践的・実証的教育のソフト面の充実をはかるものであり、2004 年度に開設された。詳細は、宮垣元「Web を活用した社会調査教育コンテンツの開発 『社会調査工房オンライン』の取り組み」(20003 年度『甲南大学情報教育センター紀要』所収)を参照。

インコンテンツである「社会調査の方法」では、多岐にわたる方法論を扱っている(アンケート法、面接法、観察法、ビジュアル分析法、フィールドワーク、資料探索法、表現の方法)。社会調査法をこれだけ多面的、総合的に学ぶことができるコンテンツ、教材は、少なくとも日本においては他にみられない。2004 年度より社会調査士認定機構による「社会調査士資格」が全国共通の資格となったこともあり、本コンテンツは全国的に注目されている。

本学科の社会調査に関する教育においては、社会をさまざまな角度からとらえる広い視野を養い、目的や現場の状況に応じて多種多様な方法論を組み合わせる創造的かつ実地的な調査方法の習得に重点をおいている。これを反映して「社会調査の方法」の各章においては3つの要素が含まれている。第1に各調査方法についての概論、第2に技法を実践的に学ぶための課題や分析のための諸データ、第3に学生や教員の研究成果報告、である。調査法を実践のなかで習得しその成果を第3者に発信する、その一連のプロセスを随時にコンテンツの内容にとりこんでゆく“成長するコンテンツ”(宮垣、2004)を目指している。

本コンテンツは、2004 年度には、社会調査関連科目(社会学・人類学実習 ・ ・ 、社会調査法 ・ ・ 、社会調査演習 ・ ・ )だけでなく、その他の専門科目(映像文化論 ・ ・ 、表象文化論、ネットワーク領域特論 ・ ・ 、カルチャー領域特論 ・ ・ 、ライフスタイル領域特論 ・ ・ 、など)や少人数教育(ゼミナール ・ ・ ・ ・ ・ 、卒業研究)そして学生の個人研究(ゼミナール論文、卒業研究論文)においても活用されている。また、他大学や一般のユーザーにも公開されており、今後は Web を利用した外部組織との教育、研究上のコラボレーションの可能性も期待できる。

## 2 . 2004 年度「社会調査工房オンライン」更新の目的

2004 年度「社会調査工房オンライン」更新の目的は3つある。1つは、コンテンツの画面を Web の特徴をいかしてビジュアル的に見やすくすることである。コンテンツのトップページのデザインを一新し、社会調査の方法の各章のタイトル記載を文字だけではなくアイコン化し、調査方法をイメージしやすくした。全体をとおして、行間、文字間隔を大きくし読みやすくなった。2つめは、社会調査の方法を、ひととおり完成させることである。昨年度は、画像権利の問題が制作上の障害となっていたビジュアル分析法を、今年度は新規に追加した。ビジュアル分析の概論に加え、甲南大学社会学科の学生の研究成果をコンテンツに積極的に取り入れた。3つめは、昨年度作成したコンテンツを実用にあわせてバージョンアップすることである。「社会調査の方法」の1 アンケート法、2 面接法、3 観察法、5 フィールドワークを更新している。新設・更新箇所は、以下の表に示した。更新の意図、内容については、3 で、具体的に報告する。

表 1 社会調査工房オンライン、自学自習用コンテンツの構成

赤文字：2004 年度新規挿入、青文字：2004 年度内容を加筆修正

<b>0 社会調査工房オンラインへようこそ</b>	1 - 3 - 4 単純集計
0 - 1 社会調査の世界	1 - 3 - 5 実習 3：集計・入力・簡単な分析 をやってみよう
0 - 1 - 1 社会調査とは	
0 - 1 - 2 社会調査の 2 つの分類	1 - 3 - 6 ヒント&プラクティス 3
0 - 2 社会調査工房オンラインについて	「意外と簡単！SPSS とりあえずやってみよう。」
0 - 2 - 1 社会調査工房オンラインのねらい	1 - 4 データの分析
0 - 2 - 2 このコンテンツの使い方	1 - 4 - 1 データ分析
0 - 2 - 3 作成にあたって	1 - 4 - 2 仮説の検定
0 - 2 - 4 「ver2」作成にあたって	1 - 4 - 3 データ分析の実際（SPSS）
	1 - 4 - 4 分析結果の加工
	1 - 4 - 5 実習 4：データの分析と出力の加工 をやってみよう
<b>1 アンケート法</b>	1 - 4 - 6 ヒント&プラクティス 4
1 - 1 質問紙調査の企画・設計	「分析は、習うより慣れることが大事」
1 - 1 - 1 質問紙調査の種類	
1 - 1 - 2 質問紙調査の 5 つのステップ	
1 - 1 - 3 質問紙調査の企画	1 - 5 レポート・報告書の作成
1 - 1 - 4 標本抽出（サンプリング）の種類	1 - 5 - 1 レポート・報告書にまとめる
1 - 1 - 5 実習 1: 企画書を作ってみよう	1 - 5 - 2 実習 5：調査報告書（個人レポート）にまとめる
1 - 1 - 6 ヒント&プラクティス 1	
「で結局、ランダムって、どうすればいいの？」	
1 - 2 調査票の作成	<b>2 面接法</b>
1 - 2 - 1 調査票の構成	2 - 1 面接法とは何だろうか
1 - 2 - 2 質問文	2 - 1 - 0 面接法の概略
1 - 2 - 3 選択肢	2 - 1 - 1 質的調査とはどのような調査なのか
1 - 2 - 4 実習 2: 調査票を作ってみよう	2 - 1 - 2 面接法の種類
1 - 2 - 5 ヒント&プラクティス 2	2 - 1 - 3 面接の基本的要素
「でもそんな簡単に質問文なんか浮かばない！」	2 - 1 - 4 面接の会話の違い
1 - 3 調査の実施とデータの集計	2 - 2 面接調査を行うにあたって
1 - 3 - 1 調査の実施	2 - 2 - 0 面接法の過程
1 - 3 - 2 調査票のチェック	2 - 2 - 1 仮説の構築と仮説の検証
1 - 3 - 3 データ入力の実際	

- 2 - 2 - 2 チェック・リストの作成法
- 2 - 2 - 3 面接調査の準備
- 2 - 2 - 4 面接の仕かた
- 2 - 2 - 5 データの信頼性の確認
- 2 - 2 - 6 面接法の基本手順
- 2 - 2 - 7 集団面接法のマニュアル
- 2 - 2 - 8 深層面接法のマニュアル
- 2 - 2 - 9 ライフヒストリー調査（生活史記  
録法のマニュアル）
- 2 - 3 面接調査をやってみよう
  - 2 - 3 - 1 面接のロールプレイング
  - 2 - 3 - 2 面接の実査
- 2 - 4 面接調査データを分析し、レポートをま  
とめてみよう
  - 2 - 4 - 0 インタビュー内容のまとめ方
  - 2 - 4 - 1 調査結果（データー）の整理と呈  
示のマニュアル
  - 2 - 4 - 2 分析結果の呈示マニュアル
  - 2 - 4 - 3 面接法のレポートの作成マニユア  
ル

### 3.観察法

- 3 - 0 はじめに～ようこそ観察法の世界～
  - 3 - 0 - 1 このパートの使い方
  - 3 - 0 - 2 観察法の工具箱
  - 3 - 0 - 3 F A Q ～逆引き観察法
- 3 - 1 観察法とはなんだろうか？
  - 3 - 1 - 1 観察法とは？
  - 3 - 1 - 2 非参与観察法のバラエティ
  - 3 - 1 - 3 技術編 1：観察法とカメラ
  - 3 - 1 - 4 実習 1：もうひとつのキャンパス  
ガイド
- 3 - 2 観察法を行うにあたって

- 3 - 2 - 1 観察法における調査目的
- 3 - 2 - 2 テーマの設定
- 3 - 2 - 3 調査の準備
- 3 - 2 - 4 技術編 2：観察法と Power Point
- 3 - 3 観察法の企画
  - 3 - 3 - 1 企画書を作成する
  - 3 - 3 - 2 記録のしかた
  - 3 - 3 - 3 技術編 3：観察法と Word
  - 3 - 3 - 4 実習 3：タウンウォッチング・レポ  
ートへ向けての企画
- 3 - 4 観察法の分析
  - 3 - 4 - 1 分析の前に
  - 3 - 4 - 2 分析するにあたって
  - 3 - 4 - 3 レポートを書くにあたって
  - 3 - 4 - 4 技術編 4：観察法と Excel
  - 3 - 4 - 5 実習 4：タウンウォッチング・レ  
ポートの作成
- 3 - 5 観察法の発表と表現
  - 3 - 5 - 1 調査結果を発表する
  - 3 - 5 - 2 レポート・論文・報告書の作成
  - 3 - 5 - 3 実習 5：タウンウォッチング・レ  
ポートの完成
- 3 - 5 - 3 大公開：学生レポート集

### 4 ビジュアル分析

- 4 - 1 ビジュアル情報を考える
  - 4 - 1 - 1 ビジュアル情報と文字情報
  - 4 - 1 - 2 ビジュアル情報を分析するために
- 4 - 2 表象分析
  - 4 - 2 - 0 はじめに
  - 4 - 2 - 1 ビジュアル分析の準備
  - 4 - 2 - 2 ビジュアル分析の第一段階 情報  
を集める

- 4 - 2 - 3 広告分析の理論
- 4 - 2 - 4 ビジュアル分析の第二段階 1 枚のビジュアルに注目する
- 4 - 2 - 5 ビジュアル分析の第三段階 広告から社会とわたしが見える
- 4 - 3 映像制作の現場から (甲南大生体験記)
- 4 - 3 - 1 番組制作街道
- 4 - 3 - 2 番組制作舞台裏
- 4 - 3 - 3 ロケ現場・制作奮闘記
- 4 - 3 - 2 番組構成

## 5 フィールドワーク

### 5 - 1 フィールドワーク始める人へ

#### 構想・企画・展開

#### 5 - 1 - 1 フィールドワークを始める人へ /

#### 6つのポイント

- 5 - 1 - 2 テーマ探し、問題設定
- 5 - 1 - 3 多角的なアプローチ
- 5 - 1 - 4 調査課題は明確に
- 5 - 1 - 5 企画と準備 / あたって砕けるな
- 5 - 1 - 6 プロセスとしての調査

#### 収集・記録・発信

- 5 - 1 - 7 記録 / 情報をかたちにする
- 5 - 1 - 8 いろいろな観る
- 5 - 1 - 9 いろいろな聴く
- 5 - 1 - 10 集める、組み合わせる
- 5 - 1 - 11 記録と向き合う / 伝える

#### 関係・位置・時間

- 5 - 1 - 12 人と人との関係
- 5 - 1 - 13 プライバシー、情報管理、安全
- 5 - 1 - 14 フィールドワークと時間

### 5 - 2 事例編 / ロンドン、都市の地域社会、コミュニティ・センター

### 5 - 2 - 0 はじめに

不思議な空間への関心 / 漠然を記録する

5 - 2 - 1 グローブ・ネイバーフッド・センターとの出会い

5 - 2 - 2 漠然とした関心を記録する

調査の始まり / 疑問を言葉にする

5 - 2 - 3 調査者となる / 私を紹介するもの

5 - 2 - 4 歩いて資料探索

5 - 2 - 5 雑多な疑問を言葉にする

人と情報をつなぐ / 記録と向き合う

### 5 - 2 - 6 道具としてのビデオ・カメラ・レコーダー

5 - 2 - 7 系統性を持たせないインタビュー

5 - 2 - 8 記録を読み解く / 情報をつなぐ

調査に「かたち」を与える / 交信

5 - 2 - 9 調査に「かたち」を与える / 「ずれ」から考える

5 - 2 - 10 The Grove Neighbourhood Centre

## 6 資料探索法

### 6 - 1 資料を探索するとは

6 - 1 - 1 百科事典を使う

6 - 1 - 2 新聞記事を調べる

6 - 1 - 3 雑誌論文を調べる

6 - 1 - 4 単行本を調べる

6 - 1 - 5 その他 各種統計、事典などを調べる

6 - 1 - 6 資料探索の事例

### 6 - 2 コンピューターを使った情報検索、情報発信

6 - 2 - 1 パーソナルコンピュータについて

6 - 2 - 2 デバイスについて	7 - 1 - 1 形式規定と注意事項
6 - 2 - 3 コンピューターのバグとウィルスについて	7 - 1 - 2 タイトルの選択
6 - 2 - 4 ネットワークについて	7 - 1 - 3 引用 文中における形式
6 - 2 - 5 検索エンジンについて	7 - 1 - 4 引用文献リスト・資料リスト
6 - 2 - 6 Web ページを作ろう	7 - 1 - 5 書式とレイアウト
6 - 2 - 7 電子メールについて	7 - 1 - 6 表記、語句、言い回し
	7 - 1 - 7 知ってて損のない Tips [ というほどのものではないが.... ]
<b>7 表現の方法</b>	7 - 1 - 8 その他
7 - 1 結果のまとめ方	

### 3. 「社会調査の方法」各章の新設・更新意図とその内容

#### アンケート法(更新)

アンケート法を習得する際に、学生がつまずきやすい3点に関する練習問題を大幅に補強した。その3点とは、(1) サンプルングの方法、(2) 調査票(その質問文や構成)の作成法、(3) 回収した調査票を数値のデータに転換するコーディングの方法、である。現在、実際の調査の生のデータをダウンロードして分析の練習をすることは、学部レベルの学生には難しい。そこで社会科学が過去に実施した「社会学・人類学実習データのための調査票(就職観、結婚観、家庭観)」および「兵庫県民 21世紀への生活意識調査」のデータを公開し、ダウンロードして練習できるようにした。また、自宅のPCを使ってデータ入力をおこなう学生のために、ExcelとSPSSの間のデータ交換の方法についても解説を加えた。これによって自宅において、本格的なコーディングや分析の実践的な練習が可能となった。

#### (1) サンプルングの方法

無作為抽出法によって調査対象者を母集団から抽出(サンプルング)する際の具体的方法について、統計ソフトのExcelやSPSSを使って乱数を発生させる方法や、大規模な母集団名簿から抽出を行なう等間隔抽出や多段抽出の具体的方法について詳述した。サンプルングの練習のために、架空の自治体の選挙人名簿登録者数一覧や住民基本台帳人口表を作成し、それぞれをダウンロードできるようにした。各名簿や人口表はエクセル形式になっているので、それを各自が加工しながら利用できる。そこが各種の紙媒体のテキストに収録されている資料集にはないメリットである。

#### (2) 調査票の作成方法

学生たちにとってもっとも効果的な学習方法は、すでに確立された質問文をまず習得し、それ

を少しずつ加工しながらオリジナルなアンケートを作成することである。2004年度に公開されたばかりのSRDQ(質問紙法にもとづく社会調査データベース)を利用した質問票作成の練習方法を開発した。この練習方法のメリットは、オンライン検索によって、インターネット環境があるところならどこでも、自分の関心に合わせて膨大なデータベースを利用しながら質問文を作成できることである。また、SSM(社会階層と社会移動全国調査)など代表的な調査データについては分析も可能で、その結果と学生が実施した調査の結果を比較することもできる。

### (3) コーディング

コーディングについては、学生たちがよくつまずく多重回答と枝分かれ問のコーディング方法を重点的に解説した。それを実践的に練習するために、1995年に社会学科で実施した「兵庫県民21世紀への生活意識調査」の調査票をダウンロードができるようにした。コーディングしデータを入力した後で、データを実際に分析できるようにするために必要なデータクリーニングの方法について、SPSSを用いて度数分布とクロス集計の二つから詳述した。

### 面接法(更新)

2004年度は準備中となっていた、深層面接法のマニュアル(2-2-8)を新規作成した。これによって、一部を残して面接法の概論をひととおり完成させることができた。2004年度の社会学・人類学実習の面接法において本コンテンツを活用するとともに、今年度の学生の優れた報告書を事例研究として、コンテンツに新たに掲載した。

### 観察法(更新)

観察法においては、2004年度「社会調査工房オンライン」のなかでとりわけ効果があったのが学生レポートの掲載であった。学生は、時にお手本として、時に批判対象として他の学生のレポートを読むことで、「実際の調査レポート」から多くのことを学ぶ。社会学・人類学実習においても、こうした事例を教材として用いることで、学生の調査に対する関心やリアリティが高まったと考えられる。

今回の更新においては、観察法では、本文箇所については初版のものを踏襲しつつ、具体的には次のような修正を行った。(1)webコンテンツとしてより相応しい構造・字句・レイアウト・強調箇所などの修正を行い、より利用しやすい・親しみやすいものへ変えることにより、特に自習時における便宜を図る。(2)学生レポートの追加などにより、「学生間の学びあい」をより促進する。

(1)については、全体をとおして説明を加え字句を修正し、Web画面としてビジュアル的にもより見やすい体裁に整えた。また、初版のコンテンツの前に、「3-0 はじめに～ようこそ観察法の世界～」を加えた(「3-0-1 このパートの使い方」、「3-0-2 観察法の工具箱」、

「3 - 0 - 3 F A Q ~逆引き観察法~」)。観察法全体の構成、意図を分かりやすく説明するとともに、観察法をさらに深く広く学ぶことができるように多方面の文献を紹介し、利用者の個別の目的に応じた観察法のコンテンツの使い方を案内している。これによって、コンテンツの内容を機能的に活用しやすくなった。

(2)については、「3 - 5 - 4 大公開：学生のレポート集」を新たな節として設け、学生のレポート12本を一挙に公開した。これらは、2004年度社会学・人類学実習において作成されたものである。ここでの学生レポートの公開は、「模範的なガイドライン」を示すためではなく、学生自身がレポートを作成する際に「考えるきっかけ」となればと考えている。多くのレポートの掲載は、学生たちがこれらが無批判に鵜呑みにするのではなく、そこから互いにさまざまな議論を展開させることを意図している。

### ビジュアル分析法(新設)

ビジュアル分析法は2004年度の予算によって新設された。各節の内容と狙いは以下のとおりある。

「4 - 1 ビジュアル情報を考える」では、今日の社会におけるビジュアル分析の必要性和歴史的視点について概説したあと、個別のメディアにおける分析・制作の方法論について、主に映像人類学の立場から述べた。「4 - 2 表象分析」では、具体的なビジュアル分析の方法について、広告を例に挙げて、資料収集から資料整理、データ化、分析などのやり方を、段階をおって丁寧に説明している。ビジュアル分析には、美術史や図像学などの領域において蓄積されてきた方法論と知見があるが、今日では、それらに加えて、表象文化論、人類学、社会学、歴史学、哲学など、領域横断的な研究が非常に盛んになっている。4 - 2 では、これらの新しい学問状況を踏まえた上で、ビジュアル分析の理論もわかりやすく紹介している。

「4 - 3 映像制作の現場から(甲南大生体験記)」では、映像制作を実際に行ない成功した事例として、甲南大学社会学科の学生の作品を紹介している。どのようにテーマを選び、どのように企画し、実行に移したかが、学生自身の手記によって明らかにされていく。映像制作の実践を紹介した理由は、ビジュアル制作を通して今日の社会の様々なテーマにアプローチすることが可能であり、また、ビジュアル分析を深める方法としても重要だと考えるからである。

### フィールドワーク(更新)

フィールドワークは、「5 - 1 基本編/フィールドワークを始める人へ」と「5 - 2 事例編/ロンドン、都市の地域社会、コミュニティ・センター」からなる。基本編は、これから調査研究を始める人に向けての、フィールドワークの取り組み方についての概論であり、事例編では、実際のフィールドワークの事例から調査研究のプロセスを具体的に紹介している。



5 - 1の今回の更新は、( 1 )構成、( 2 )内容の加筆修正、( 3 )学生からのコメントの掲載、である。この章では、調査のプロセスや姿勢についてさまざまな視点から「問題化」することを目的とし、調査のなかではマニュアル化しにくい部分を扱っている。このため章全体としてひとつのまとまりをもつことが難しい。初年度のコンテンツにおいても5 - 1は、13の小節が並列に配置され、全体像がとらえにくかった。今回は、5 - 1全体を3つのパーツ(「構想・企画・展開」、「収集・記録・発信」、「関係・位置・時間」)に分け、基本編全体の構成をつかみやすくした。各パーツの意図に応じて、そこに含まれる小節、項目の内容も加筆修正した。また、2004年度の社会調査法の講義でこのコンテンツを実際に利用してみて気がついた事項を新たに加えるなどして、内容を充実させ、小節を1つ増やして14小節とした。また2004年度の講義のなかで出された受講生の意見を、概論のなかに組み込んだ。学生からの多様な意見が、コンテンツのユーザーにも届きやすく、そこから調査研究をめぐるさまざまな問題を多面的に考えることができないかと試みた。

5 - 2事例編は、執筆担当者が携わっているフィールドワークの進行とともにコンテンツが作成されている。5 - 2全体の構成は大きく変えてはないが、調査のプロセスを分かりやすくするために、調査の時系列にそって整理している。また、2004年の調査の経過と成果を新たに加筆した(5 - 2 - 9調査に「かたち」を与える / 「ずれ」から考える)。また、これまでの調査の成果についての英文報告を掲載した(5 - 2 - 10 The Grove Neighbourhood Centre)。ロンドンの調査対象地域の人々が本コンテンツにアクセスすることで、調査でえた知見を現地の人々と共有し、Webをとおした交信が可能となるのではないかと試みた。調査報告では、文字情報や静止画だけでなく、インタビューの音声の一部もとりにれた。デジタルコンテンツだからこそできる、発信のかたちを探った。

#### 4 今後の課題

今後の課題としては、なおテキスト中心の記載となっており、デジタルコンテンツの利点を活かしきれていないことである。さらなるマルチメディア化とリンクの充実をはかる必要がある。また、関係科目の掲示板機能もさらなる利用が可能である。各科目の講義内容のフォローアップ、課題のレポート等へのコメント、その他の質問事項の共有など、さまざまな活用が考えられるが、現時点での利用は限定的である。人的資源、予算等の問題はあがあるが、教職員、ティーチング・アシスタント、情報教育センター間の協力体制のもとで、コンテンツを活用しながら必要に応じて今後も随時に更新、展開してゆきたいと考えている。

#### 謝辞

社会調査工房オンラインは、2003年度「甲南大学サイバーキャンパスネットワーク事業」の一

環として企画・制作された。実際の制作にあたっては(株)ナスピアが担当した。担当の加藤貴裕氏( [株]ナスピア )をはじめ、甲南大学情報教育センター関係者各位には、制作過程をとおしてさまざまなかたちで助言、協力をいただいた。また本コンテンツは、本学社会学科の教員だけでなく、学部生や大学院生の積極的な参加によって制作されている。ここに改めて感謝申し上げます。

#### 参考文献・資料

宮垣元「Web を活用した社会調査教育コンテンツの開発 『社会調査工房オンライン』の取り組み」(2003 年度『甲南大学情報教育センター紀要』所収)

甲南大学文学部社会学科、社会調査工房オンライン  
: <http://kccn.konan-u.ac.jp/sociology/research/>